

第5節 観光



現況と課題

- ◆ 本市は、2017（平成29）年に「富士吉田市観光基本計画」を策定し、観光客の増加はもちろん、観光客の皆さまの満足度向上を目指し、各種事業を展開してきました。この観光基本計画の策定から5年が経過し、その間に社会情勢等も大きく変わっていることから、2023（令和5）年度に向けて、現状における観光動態分析等を実施する中で、より効果的かつ実効性のある施策を展開できるよう「富士吉田市観光推進計画」を策定することとしています。
- ◆ 本市の東の玄関口である道の駅エリアには、道の駅富士吉田をはじめ、富士山レーダードーム館、富士山アリーナ、地ビールレストラン、アウトドアショップなど数多くの観光施設が存在し、年間160万人を超える観光客が訪れる観光集客拠点となっています。2021（令和3）年度にはレーダードーム館の展示をフルリニューアルし、また、2023（令和5）年度には国道を挟んだふじさんミュージアムエリアに富士の杜・巡礼の郷公園も新たにオープンを迎えます。さらには2022（令和4）年7月に富士吉田忍野スマートインターチェンジも開通し、今後ますます集客が期待できるエリアとなります。これらの各施設の機能を最大限発揮する中でエリア全体としての魅力を高め、さらなる地域経済の活性化を進めていきます。
- ◆ 道の駅及び富士山駅では、観光案内所において本市のみならず富士北麓地域を中心とした広域観光案内を行い、周遊観光を促進しています。また、2017（平成29）年度からは移動式観光案内所を導入し、各種イベント会場などへ出張し、観光PRを行っています。
- ◆ 昨今の新型コロナウイルスの感染拡大によりインバウンド（訪日外国人旅行者）需要が大きく減少し、市内の宿泊事業者や飲食店の経営状況は非常に厳しいものとなっています。今後においては、新型コロナウイルスの感染状況を注視する中で、アフターコロナ、ウィズコロナという環境下での観光振興を視野に入れ、インバウンド需要の回復に向けた受入環境の充実を図っていきます。
- ◆ 新倉山浅間公園桜まつりやハタオリマチフェスティバル、フジテキスタイルウィークなどの開催により、全国へ向けて本市のPRを行い、観光客の誘客を図っています。また、イベントを通じて中心市街地を訪れていただくことにより、関係人口、交流人口の拡大を図り、地域経済の活性化へ取り組んでいます。さらに夜の観光消費を促進するナイトタイムエコノミー事業を展開し、富士五湖エリアで一番の歓楽街であった西裏地区の活性化を図っています。
- ◆ 観光地としての魅力を一層向上させるためには、「おもてなしの心」で内外の旅行者を惹きつける人材の確保・育成の場が必要です。また、観光資源磨き上げへの市民との協働体制の強化が重要となります。
- ◆ 観光振興体制の拡充には、観光関係の組織の育成とそれらとの有機的な連携が必要であり、マスコミの活用、観光キャンペーンの実施、観光魅力アップ補助金の活用等を実施しているほか、（一財）ふじよしだ観光振興サービスへの事業委託や観光事業者との連携強化に努めています。

- ◆ 観光旅行者の行動範囲は広域にわたるため、観光施策も広域的な連携が重要です。市では、「富士山・富士五湖地域等広域観光事業」により、ルートマップやポスター作成等のほか、山梨県主催の旅行業者等商談会やイベントへの参加、インバウンド商談会への参加、これらによる着地型旅行商品の企画開発等を進めています。広域観光コースに組み込める観光資源の構築、大型観光バス駐車対応の強化、自治体間及び民間観光事業者との一層の連携強化、観光振興の人材育成の広域対応等が課題です。
- ◆ 安全安心な富士登山の観光施策として、案内人登録業者の講習会で適切な観光案内の指導を行っているほか、救護所連携会議を立ち上げ、救護体制の連携・情報共有を図り安全対策に繋がっています。五合目総合管理センター・山小屋・救助会・ガイド等とのさらなる連携強化、ヘルメット着用の推奨などが課題です。

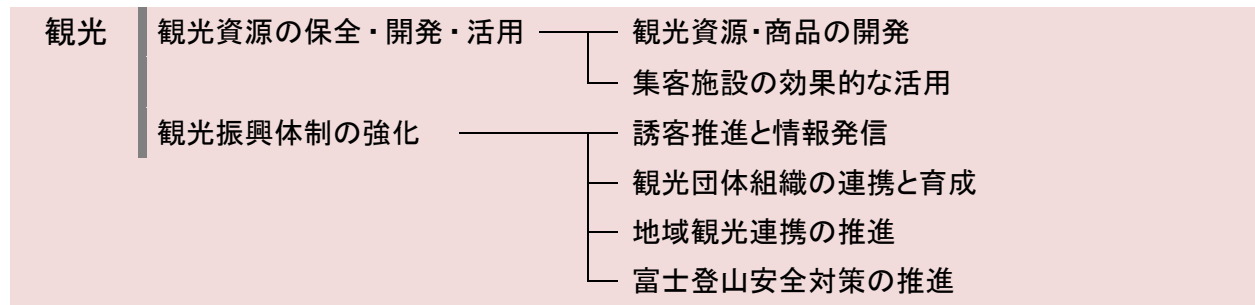
● 新倉山浅間公園桜まつり



● ハタオリマチフェスティバル



施策の体系



施策

(1) 観光資源の保全・開発・活用

①観光資源・商品の開発

歴史的資源や景観資源の保全と整備、文化の継承に取り組むとともに、「富士吉田市観光基本計画」に基づき、本市の魅力を最大限に引き出し、観光客の増加へ向けた各種事業を展開します。また、アフターコロナ、ウィズコロナを見据えた中で「富士吉田市観光推進計画」を策定し、今の時代に即した有効かつ効果的な観光施策を実行していきます。

②集客施設の効果的な活用

ふじさんミュージアムエリアに完成する富士の杜・巡礼の郷公園、また、道の駅エリアに今後整備が予定されているジビエ加工センターなど、当該エリアには新たな魅力的な施設が誕生します。これらの新たな施設と既存施設の魅力を融合する中で、さらなる同エリアの魅力アップを図り、全国に誇れる観光集客拠点を目指します。

(2) 観光振興体制の強化

①誘客推進と情報発信

本市の魅力を最大限に引き出すイベント等の開催や観光エージェント等との商談を積極的に行うことにより、本市への誘客を推進します。情報発信には、SNSなどの情報ツールやメディアを有効に活用し、国内のみならず海外へも積極的な発信を図るとともに、本市を訪れる観光客からの情報発信の環境も強化していきます。

②観光団体組織の連携と育成

(一財) ふじよしだ観光振興サービスが核となり観光関連団体を取りまとめ、観光商品開発、イベント運営、誘客事業などで連携を図ります。また、地域資源を活用した着地型観光の推進等において、市民との協働による地域をあげた体制の強化を図るとともに、誘客力の一層の強化のため、組織体制や地域との連携のあり方等について検討を加えていきます。また、観光経営マネジメントや観光地域づくりの人材育成に努めます。

③地域観光連携の推進

富士五湖観光連盟や山梨県等と連携し、イベントへの参加、旅行業者等商談会、インバウンド商談会への参加により誘客を図っていきます。また、富士五湖観光連盟、富士山五口協議会等との連携事業を通じて、広域的な観光周遊を促進していきます。一方、リニア中央新幹線の開通と山梨新駅の設置による経済効果等を獲得するため、交通事業者等との連携を図る中で、富士北麓地域、本市への誘客を促進していきます。

④富士登山安全対策の推進

7月1日からの夏山開山期間中について、山梨県が管轄する五合目総合管理センターと連携を図る中で、六合目安全指導センターにおいて、安全登山の指導及び啓発を行っていきます。突発的噴火及び落石事故等に備えるため、ヘルメットの着用を推進し、六合目安全指導センターにて、ヘルメットの無償貸出を行い安全登山の推進を図ります。また、高山病などの傷病者に対応するため、八合目救護所を中心に、山梨県の管轄する五合目及び七合目救護所と連携し、登山者の安心・安全を確保するとともに、吉田口旅館組合、富士山案内人組合等の関係団体と連携し、さらなる安全登山を推進していきます。

富士登山についての情報を富士登山ガイドマップや富士山吉田口登山ウェブサイトにより周知し、各種富士登山関連書籍やメディア等を有効に活用する中で、情報の発信を行っていきます。併せて、麓から唯一歩いて登ることのできる吉田口登山道を活用し、富士山の自然や文化、信仰の歴史を感じながら登山する「麓から登山」の推奨も進めていきます。

●リフレふじよしだ



●ふじさんミュージアム内部



●登山ヘルメット貸出(富士山安全指導センター)

